

「木の駅プロジェクト」体験 八学大生が間伐作業



間伐材の伐採作業を行う学生

新郷

新郷村西越の山林で26日、八戸学院大地域経営学部が林業を体験する授業が行われた。学生らは作業

部として実施され、3、4年生8人が参加。「木の駅プロジェクト」実行委員会（小笠原敏彦委員長）などが協力した。プロジェクトは、山林所有者らが間伐材を村の「木の駅」に出荷すると、量に応じて地域通貨「郷やま券」を受け取れるもの。間伐材は三八地方森林組合が買い取り、まさに加工して新郷温泉館の木質ボイラーで使用される。

同学部の科目「地域経営学特殊講義」の一

プロジェクトは、山林所有者らが間伐材を村の「木の駅」に出荷すると、量に応じて地域通貨「郷やま券」を受け取れるもの。間伐材は三八地方森林組合が買い取り、まさに加工して新郷温泉館の木質ボイラーで使用される。

（田村純也）